

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成28年4月28日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4692600010
法人名	社会福祉法人 恵愛会
事業所名	グループホーム このゆびと一まれ
所在地	鹿児島県南九州市知覧町永里4577番地2 (電話) 0993-83-1015
自己評価作成日	平成28年3月9日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成28年4月15日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・前回の外部評価からスタッフが5人入れ替わり、平均年齢が若返ったことで行事やイベント事に力が入り、充実している。  
 ・スタッフ間の風通しが良く、コミュニケーションや連携・連絡が良く取れている。そのため、申し送り事項や特記事項への対応がスムーズに行われている。  
 ・利用者間で支え合う環境ができており、行動障害のある方に対して比較的しっかりした方が助言やサポートをしている姿がみられる。行動障害のある方も頼りにしている。  
 ・利用者優先を意識することで、家庭的な雰囲気が保たれ、利用者は思い思いの時間を過ごすことができている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・当事業所は広い敷地内に、同法人の特別養護老人ホームやデイサービスセンターなど介護福祉関係の事業所が隣接し、地域の高齢者福祉の一端を担っている。災害時や緊急時の相互協力体制が構築されている。  
 ・地域行事に積極的に参加したり、事業所前の園庭を地域住民に開放し、日常的に交流している。認知症の相談を受ける等、地域に貢献している。  
 ・利用者個々人の楽しみに繋げられるように、編み物や裁縫・ぬり絵・花の手入れ・ドリルなどを取り入れ、その人らしい生活ができるように支援している。  
 ・代表者や管理者は日頃から職員が働きやすい環境作りに配慮し、資格取得に向けた支援や各種研修等への出席を奨励し、職員育成に力を入れている。職員間のコミュニケーションもよく、利用者や家族からの信頼が厚い。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	スタッフが常に理念を意識してサービスを提供できるように、わかりやすい理念を掲げている。理念はキッチンと職員トイレに掲示しているとともに、4月に職場内研修を行い、共通認識をしている。	理念について職員全員で見直しを行い、独自の理念を作成している。キッチンや職員トイレに掲示している。朝のミーティング時や会議等で話し合い、理念を共有して実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	学童保育との月1回の交流、有償ボランティアの活用を行っている。また、月1回の外出行事ができるように取り組み、町内行事への参加をおこなっている。園庭をグランドゴルフに開放しており、ベランダで利用者と交流している姿がみられる。	二日市などの地域行事に積極的に参加したり、園庭をグランドゴルフ等に開放して日常的に地域と交流している。学童保育児との交流、中・高校生の職場体験学習、有償ボランティアの受け入れなども行っている。地域住民からの認知症相談にも対処している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	介護科の実習生、中学生の職場体験を受け入れている。また、利用者の家族や利用申込みの方に認知症についての理解や支援を説明している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>利用状況、行事・研修、入退所、入退院、事故等の報告をし、そこで出席者から得られた要望や意見、苦情等を汲み取り、サービス向上に活かしている。</p>	<p>会議は定期的開催している。事業所の状況や事故報告・インフルエンザ報告・外部評価結果報告等を行い、意見交換をしている。そこでの意見で、服薬管理などをサービス向上に活かしたり、認知症についてや権利擁護に関する研修等を行っている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>窓口や電話、運営推進会議で相談、状況報告をおこなっている。サービスや制度についての不明点や疑問点はこまめに相談し、回答を頂くなど、協力を得ている。</p>	<p>市の担当者には、日頃から電話や窓口に出向き、事業所の状況や相談・情報を交換して助言を貰っている。市主催の交流会にも参加している。運営推進会議を通して協力関係もできている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>定期的に身体拘束に関する職場内研修を行い、理解に努めている。現在、身体拘束は無いが、施錠については利用者の安全を確保するために必要な個所のみにするよう努めている。</p>	<p>事例や課題に基づいて定期的に研修会を行い、職員の共通認識を図り、言葉の場合も含め身体拘束をしないケアに取り組んでいる。昼間は玄関の施錠をせずに帰宅願望が強い場合は、見守りや庭の芝生での散歩で気分転換をする等、職員の連携で安全な暮らしを支援している。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>職場内研修やミーティングの際に、普段の何気ない関わり合いや言葉掛けが虐待にあたらないかをスタッフで振り返り、確認している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>管理者はH27年9月に権利擁護推進員養成研修会を受講している。現在、利用者の1人が日常生活自立支援事業を利用しているので、2月の職場内研修で日常生活自立支援事業について触れている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約の際は説明を充分にし、納得が頂けた上で締結している。解約についても退所後の支援を継続しておこなうことを説明し、不安を和らげられるよう努めている。利用料の改定等については運営推進会議や面会時に説明し、同意を得ている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>利用料の支払いを持参払いとし、毎月1回は家族との面談ができ、意見や要望の聞き取りをおこなっている。また、普段から家族が意見や要望、苦情等を言いやすい雰囲気作りを心掛けている。出された意見等は運営に反映させるよう努めている。</p>	<p>気軽に話しができる雰囲気作りに留意している。利用者からは日々の関わりの中で意見や要望を聞き思いを把握している。家族からは面会時や運営推進会議時・電話などの機会に話をしている。出された要望等で天窓がまぶしいとか、廊下の照明を明るくして欲しい、ぬり絵や脳トレニングの希望があり、運営に活かしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>代表者は月に数回ホームを訪れ、スタッフから直接意見等を聞く機会を設けている。管理者はミーティング以外にも普段から意見等を聞くように努めている。ホームとしての意見等は法人の運営会議にて代表者へ提案している。</p>	<p>代表者や管理者は、日頃から職員とのコミュニケーションを図り、日々の業務やミーティング等で職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映を図るよう心がけ、ケアは即取り入れている。出された意見や提案は運営会議で検討し運営に反映させている。相談事は個別に聞き適切にアドバイスをしている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>代表者は月に数回ホームを訪れ、スタッフから直接意見等を聞く機会を設けている。また、スタッフが意見等を出しやすい雰囲気作りをし、コミュニケーションが良くとれている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>代表者はスタッフが様々な研修に参加し、成長できるようにバックアップしている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会に所属し、協議会主催の研修会や交流会に年数回参加している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前から本人、家族、居宅ケアマネと面談し、情報を収集することでニーズの把握に努めている。また、入所前から数回面談をすることで顔見知りになり、本人や家族が安心して入所できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申込の段階から、家族が不安に感じていること、困っていること等の情報を収集し、入所決定後も数回面談することで安心して入所できるように信頼関係構築を心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の情報収集を踏まえて入所初期にどのような支援を必要としているか見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者とスタッフが家庭的な雰囲気の中で過ごし、利用者は介護されるだけの立場ではなく、食器洗いや洗濯たたみ、料理の下ごしらえ等、個々の能力を活かして共同生活を営んでいる。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院受診を基本的に家族に依頼している。入所したことによって、利用者と家族の関係が途絶えないように面会・外出・外泊の機会を多く持って頂けるようお願いと支援をしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	子供以外の家族(兄弟やいとこ)や友人の面会もお願いしている。面会時にはゆっくりと過ごして頂けるように配慮している。	親族や友人の訪問が多い。併設する特別養護老人ホームとの交流も行い、継続的關係が途切れないよう働きかけている。手紙や電話の取次ぎなども行っている。馴染みの理美容院の訪問利用もしている。家族の協力で外出や外食・墓参などを支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を考慮してホールの席を決めている。スタッフが間に入ることで利用者が孤立しないように努めている。また、困っている利用者を手助けしたり、気に掛ける姿がみられる。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も入院先、入所先の相談員等と連携を図っている。同法人の特養へ入所された方には行事等の時に馴染みの入居者と一緒に面会へ行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	普段の会話やぼつりと漏らした何気ない一言から本人の思いや意向を把握するように努めている。また、家族や居宅ケアマネからも希望や意向を聞き取っている。	日々の生活の中で様子を観察し、言葉や表情などから希望や意向の把握に努めている。夜間眠れずに職員に話かける中で言葉や表情から真意をくみ取っている。利用者の意向や思いはミーティングで共有し、気づきを記録している。意思疎通が困難な場合は職員間で話し合い、本人中心に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始前から利用開始後も継続して本人・家族・居宅ケアマネから情報収集をしている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々のケース記録と朝夕の申し送りによって、一人一人の現状を線で把握することができている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月毎にスタッフ2名と計画作成担当でモニタリングを実施し、ケアプランの見直しを行っている。毎月のケアカンファで職員全員で話し合い、介護方針を確認している。家族には面会時や電話で意向や思いを聞き取っている。	利用者や家族の意向を聞き、主治医の意見も取り入れ、個々に応じた介護計画を作成している。毎月カンファレンスを実施し、3ヶ月毎にモニタリングを行い、必要に応じて見直している。状況が変化した時は現状に即した介護計画を作成している。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>特に注意すべき点や特筆すべき事象については、ケース記録の特記欄に記入し、他のスタッフと情報共有を図っている。更に重要事項については申し送り簿へ記入し、スムーズな情報共有とケアプランの見直しに活用している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>その時々生まれるニーズに応じて受診同行、買い物代行、外出や趣味の支援などに柔軟に対応している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>有償ボランティア、日常生活自立支援事業を活用することで、持てる力を発揮しながら安心して豊かな暮らしができるように支援している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>病院受診は基本的に家族に同行してもらい、入所前からのかかりつけ医を主治医としている利用者もいる。必要に応じて、情報提供書の作成や同行をおこなっている。本人の状態や家族の都合により受診が難しい場合は協力医療機関の訪問診療との契約を提案している。</p>	<p>本人や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。通院は家族同行となっているが、情報提供書を作成する場合もある。緊急時の対応などに医療連携が図られており、適切な医療が受けられるよう支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>訪問看護ステーションと月2回の訪問を契約している。特養の看護師や協力医療機関の看護師との連携もうまく機能しており、適切なアドバイスをもらうことで早期発見や早期受診、適切なケアに結びついている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院後1週間毎に治療経過や退院の見通しについて連絡を取り合っている。また、入院退所となる条件を伝え、早期退院できるよう相談している。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化・看取りに関する指針を作成している。運営推進会議にて家族に説明するとともに、その状態に近づいてきた時には改めて詳しく説明し、同意を得ている。スタッフは年に1回、重度化・看取りに関する指針について職場内研修をおこなっている。</p>	<p>入所時に重度化や看取りに伴う対応の指針を説明している。状況変化に伴い主治医の診断を踏まえ、再度家族に説明し同意を得ている。同法人の特別養護老人ホームとの連携も説明し同意を得、家族と方向性を共有できるように取り組んでいる。事業所ができる最大のケアをしながら、安心して最期を迎えられるように支援している。職員は職場内研修を行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急時対応マニュアルを作成している。また、急変や事故が発生した時の初期対応や応急手当について研修をおこなっている。また、発生時に落ち着いて対応できるように連絡先や対応をキッチンに貼りだしている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回の法人合同避難訓練、GH内の避難経路の確認とシュミレーションをおこなっている。法人全スタッフとGHスタッフのホットラインが整備されている。法人として地域の消防団等と連携体制がある。</p>	<p>年2回消防署立会いのもと、マニュアルをもとに、隣接する同法人の関連施設と合同で昼夜想定避難訓練を実施している。地域住民との協力体制もできている。自主訓練も年2回実施し、避難経路等の確認、防災設備の点検などを行っている。災害時の水やレトルト食品・カップラーメンなどの備蓄もある。介護用品などは数日の備蓄をしている。地域消防団や法人全職員との協力体制を築いている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>ミーティング等で、普段の接し方や声掛けについて利用者の尊厳が保たれているか確認をしている。それぞれが振り返り、反省している姿もみられる。羞恥心に関わる対応には特に気を付けている。</p>	<p>個々人の人格を尊重する言葉かけや対応に留意している。ミーティングや申し送りの時に振り返りや確認をしている。特に羞恥心に対する配慮を行っている。利用者一人ひとりの気持ちを傷つけないように言葉や節度ある態度に取り組んでいる。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>希望や思いを表現したり、自己決定をし易いような関わり方を心掛けている。意思表示が乏しい方には、自己決定がし易いように二択で質問したり、普段の関わりから思いや希望を汲み取るように努めている。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>おおまかなタイムスケジュールは決まっているが、できる限り希望に添えるように努め、スタッフは利用者優先を意識し、利用者は思い思いに過ごすことができている。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している</p>	<p>整容の介助が必要な方に対して、不十分な日がある。衣類は入浴時に一緒に選んだり、外出時は特におしゃれな組み合わせを選んでいる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いに応じて代替品を提供している。毎日ではないが、昼・夕食に何が食べたいか、利用者に決めてもらっている。衛生面に気をつけながら、能力に応じて、料理の下ごしらえや食器洗いを手伝ってもらっている。	法人の栄養士の助言を参考に、旬の食材を使って、利用者の嗜好や食事形態を工夫している。利用者の力量に応じて食事の準備や片づけを職員と一緒にしたりしている。食材を見ながら利用者とメニューを決めることが多い。誕生会食や季節の行事食・外食など、食事が楽しみなものになるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	特養の栄養士に相談できる体制ができています。持病により食事制限・水分制限がある利用者は、主治医からの指示により適切な摂取量の提供ができています。個別に摂取量を記録し、管理、把握している。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々の力や状態に応じた口腔ケアの支援や義歯管理をおこなっている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	可能な限りトイレでの排泄ができるように支援するため、個々に合わせた紙パンツや尿取りパッドの使用、手摺りの設置等の環境整備、尿意が乏しい方や自力でトイレに行けない方は声掛け・誘導をおこなっている。	排泄パターンや習慣を把握し、自尊心に配慮しながら、声かけや誘導でトイレでの排泄の支援をしている。日中はトイレを使用するようにしている。排泄用品は身体機能に応じて対応している。オムツ使用者はいないが、リハビリパンツやパットを使用している。声かけ誘導の時は言葉に気をつけ声の大きさにも配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個別のケース記録にて排便状況の把握に努めている。主治医や看護師と連携し内服薬の調整による便秘予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	基本的に一日おきの入浴だが、要望があれば柔軟に対応する。入浴の順番やお湯の温度は希望に添えるように支援している。	入浴日は週3日と決まっているが、希望があればいつでも入れるように準備している。同性介護になるよう工夫している。一人で入る利用者にも見守りをしている。シャンプーや石鹸等も個々の希望に添って対応して入浴を楽しめるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝がしたい方は、自席や居室、和室で自由に昼寝をしている。就寝時間は自由であり、室温や寝具は好みに応じて調整している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情書を個々のファイルと薬箱に入れていつでもすぐに確認できるようにしている。内服薬に変更があった場合は、ケース記録と申し送り書に記載することで、全員が把握し、経過観察できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力に応じた役割分担や余暇活動の支援をおこなっているが、意思表示の出来ない方に対しては不十分である。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>その日のうちに希望に応えることはなかなかできないが、希望を把握し、スタッフが応えられない時は家族への外出・外泊支援に繋げている。GHとしては、地域行事や季節に合わせた外出支援をしている。</p>	<p>日常的には近隣の散歩や園庭での散策・ウッドデッキでの外気浴を行っている。利用者の希望を聞き、可能な範囲で外出支援をしている。計画を立てて、毎月1回は花見やソーメン流し・遠足・外食等をドライブを兼ねて出かけている。家族の協力で盆や正月の帰宅・法事・墓参などの支援も行っている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>自分で管理できる方については、家族の合意のもと、自己責任で必要最低限を所持してもらっている。預かり金をGHで管理し、日用品の買い物を代行したり、外出行事の時に買い物ができるように支援している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>希望があればいつでも電話ができるように支援している。入居時に、家族へいつでも電話をしてもいいように了解を得ている。また、家族からも電話を掛けてきてもらえるように働きかけている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>皆さんが集まるホールには季節に合わせた飾り付けや掲示物をしている。和室やホールにいても台所から料理の音や匂いがしてきて心地がいい。また、トイレから悪臭がしないように消臭剤を使用したり、さりげなく戸を閉めたり掃除をするなど心掛けている。</p>	<p>共用空間は木造作りで木の温もりが感じられ、採光や換気・温度・湿度に配慮され清潔である。和室のコーナーではくつろげる配慮がなされている。テーブルとイスが用意され各自自由に過ごしている。テーブルの高さは手作りの台を乗せ調整できる。ホールの飾りには季節感を取り入れ、広い園庭を眺めながら、居心地よく過ごせるような工夫がされている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>和室で寛げるように加圧マッサージ機やラジカセ、新聞を置いている。ホールの席は利用者同士の人間関係に配慮して決めている。キッチンや窓際に椅子を配置し、職員とお話したり、ひなたぼっこをする姿が見られる。</p>	/	/
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>昔から使い慣れた家具を居室に納まる範囲で持ち込めるようにしている。大切にしている小物や写真を自由にレイアウトしてもらっている。</p>	<p>居室はベッドやクローゼット・エアコンが設置されている。ウッドデッキでプランターに花を育てたりしている。家具やぬいぐるみ・家族写真・装飾品・手作り作品・整理たんすなど、使い慣れた物や家族の思いが伝わるものが持ち込まれ、安心して過ごせるよう配慮されている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>各居室・廊下・トイレ・ホールには手摺りを設置している。ホールの椅子は2種類から、その人の状況に合わせて安全に立ち座りができる物を選んでいる。居室内は、ベッドの高さをそれぞれ調整し、必要に応じてPWCやセンサーマットを設置している。</p>		

## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない